

# 祝 入学おめでとう!



2022.4.6(水) 新入生...名

全校児童...名でスタート



発行所  
常磐南小学校  
電話 46-2005  
FAX 46-2048  
— 第23号 —  
2022.4.28



3月、本校を卒業した...さんは、読書感想文をこんな言葉で結んだ。  
\*県コンクール「優秀賞」\*著書「のび太という生き方」  
『完璧をいきなり目指さず、失敗することも楽しみ、カッコいい自分を想像する。そんな「のび太メソッド」で無理をせず夢を叶えたいと思います。そのために授業では恥ずかしくならず、わかる問題から手を挙げて...』  
授業で発言することに少々苦手意識をもっていた...さん。1冊の本との出会いから、新しい自分づくりをスタートさせた。

2022.4.28  
**授業改革**  
\*『学び合い』と「チーム学習」\*  
校長 都筑 祐一

実は私も小学生のころ、同じような苦手意識があった。自信もないし、勇気もない。そんな子どもだった。思うに、自分の意見を堂々と発表する子はそれだけですごいと思う。しかし、その数は学年が進むにつれて減少する。  
ゆえに普段の授業の多くは、ほぼ決まった子の発言と、先生の説明で進んでいく。黙ったまま聞くだけで1時間の授業を終える子も少なくない。これが一斉授業の弱点、壁だ。

その壁を打ち破り、子どもたちの主体性を引き出す学びがある。三崎先生(信州大学)が提唱する『学び合い』と、岡崎市教委が推奨する「チーム学習」だ。本校は今年、この2つの学びに挑戦する。  
2つの学びが目指すのは、次のような教育の姿だ。  
「1人も見捨てない教育(『学び合い』)」  
「だれ1人取り残さない教育(チーム学習)」  
「見捨てない」「取り残さない」の主語は、教師であり、子どもたち自身だ。「わからないから教えて」と言える子どもと、それを受けて「トコトン教える」子ども。基本的に教師の仕事は教えることから、子どもたちの学びをつなぎ、支えていくことになる。  
教師主導の一斉授業から子ども同士が学び合う授業へ。黙ったままの子どもはゼロになる。意見や疑問も気兼ねなく伝え合うことができる。何より子ども同士、安心して学び合う関係が広がり、きっと学力も向上する。  
ただ、理想の学びに達するまでには少々時間がかかる。まずは子どもも教師もこれまでのあたりまえを脱却するところからのスタート。  
早ければ、2学期の授業参観。見捨てない、取り残さない授業を覗いていただきたいと思う。まずは挑戦。

